

## 令和6年度 第2回 神奈川県立がんセンター 医療安全監査委員会 議事概要

### 1 日時

令和7年2月7日（金） 16:00～17:30

### 2 場所

神奈川県立がんセンター 管理・研究棟5階 中会議室

### 3 出席委員

- ・ 中山 治彦 委員長（神奈川県予防医学協会理事 中央診療所 副所長（医師））
  - ・ 菊地 龍明 委員（横浜市立大学附属病院 医療の質向上・安全管理センター安全管理部長（医師））
  - ・ 加藤 節子 委員（神奈川県看護協会 危機管理課 課長（看護師））
- （欠席委員）大塚 達生 委員（神奈川総合法律事務所（弁護士））
- （欠席委員）天野 慎介 委員（一般社団法人全国がん患者団体連合会 理事長）

### 4 議事次第

- 1) 前回の医療安全監査委員会での指摘事項への対応状況について
- 2) 医療安全関連会議議事録等の記載内容について
- 3) 医療事故調査委員会について

### 5 質疑応答

- 1) 前回の医療安全監査委員会での指摘事項への対応状況について
  - ・ B型肝炎ウイルスモニタリングチェックシステム構築に関する進捗状況について、高難度新規医療技術および未承認新規医薬品等評価委員会の概念図および要綱から前回指摘事項の修正を行ったことについて報告がされた。
  - ・ 左右マーキングに関して、手術同意書と手術申込書の記載内容に齟齬が無いよう、手術に係る診療科共通の基盤整理について説明が行われた。
  - ・ 情報共有、カルテ記載、患者への説明の徹底について、各種会議や医療安全ニュースから院内へ周知したことが説明された。

<委員からの意見>

  - ・ 手術時の部位マーキングは、メスを入れる最終チェックで視認することが望ましく、タイムアウトでの確認事項に追加すると良い。
  - ・ 看護師同席については、優先的に同席する場面を事前に調整し、できるだけその時間は看護師の業務を調整する仕組みがあると良い。
- 2) 医療安全関連会議議事録等の記載内容について
  - ・ 看護師のアセスメント力や教育について質問がされ、取組みについて説明がされた。
  - ・ 緊急コール事例について質問がされ、各事例についての状況と対策について説明が

された。

- ・ 筋弛緩薬に関する事例より薬剤採用と配置について質問がされ、配置状況と取り扱いについての説明がされた。
- ・ 手術関連事例での背景要因について質問がされ、事例発生時の状況とその後の対策について説明がされた。
- ・ 誤嚥による窒息対策の今後の方向性について質問があり、進捗状況が説明された。
- ・ 医療安全文化調査について質問がされ、実施状況と評価について説明がされた。
- ・ 神奈川県立病院機構医療安全外部調査委員会42の提言プロジェクトについて質問がされ、進捗状況について説明がされた。

<委員からの意見>

- ・ 看護の教育では、重大事象に発展しそうな事案も講義に加えていただき、くり返しシミュレーション等を行って頂きたい。
- ・ 病棟配置薬の使用時は薬剤師の監査が入らないため、病棟配置薬使用時の確認手順を病院として明確にすべきであり、定められた手順は順守しなければならない。
- ・ 手術遺残対策としてカウントの徹底と複数名での画像確認の順守を挙げているが、ポータブルエックス線画像をガーゼ強調モードにするなど仕組みを変えることも重要である。

### 3) 医療事故調査委員会について

- ・ 院内で行われた医療事故調査委員会について説明がされた。

<委員からの意見>

- ・ 各委員会の規定と審議の流れ図等を次回の監査委員会で提示いただきたい。

### 6 神奈川県立がんセンター医療安全監査委員会の体制と要綱改訂について

- ・ 委員の変更、会の成立を含めた設置要綱の見直しを行っていくことが承認された。

### 7 審議と評価

- ・ カルテ監査に具体的な数値目標があり、積極的に取り組まれていると感じた。
- ・ 看護師の参画も継続的な仕組みが整えられている。安全文化の課題はあるが、今できることに皆で取り組む姿勢が素晴らしい。
- ・ 知らない、やっていない、他者に依頼した等、個々の最終責任のあり方には課題があるが、安全行動を取った人が評価される仕組みがあれば、スタッフの意欲向上につながるのではないかと考える。
- ・ 医療安全文化調査の結果と職員へのフィードバックについて、次回詳細に伺いたい。
- ・ アセスメントを積み重ね、言いにくいことでも伝えられる環境を整えることが重要であり、時間をかけて確立して行って頂きたい。

以上